

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】令和2年12月3日(2020.12.3)

【公開番号】特開2019-6968(P2019-6968A)
 【公開日】平成31年1月17日(2019.1.17)
 【年通号数】公開・登録公報2019-002
 【出願番号】特願2017-204213(P2017-204213)
 【国際特許分類】

C 0 8 B 37/00 (2006.01)

D 0 1 F 9/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 B 37/00 C

D 0 1 F 9/00 Z

【手続補正書】

【提出日】令和2年10月20日(2020.10.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

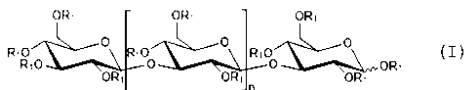
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

以下の式(I)で表されるパラミロン誘導体を含む水和ゲル。

【化1】



(式中、nは60～3000の整数を表し、R₁はカチオン性官能基、または水素原子を表す。ただし、カチオン性官能基は、1つ以上含まれる。)

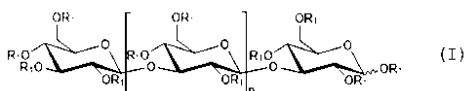
【請求項2】

カチオン性官能基による置換度が、グルコースユニット一つに対し、0.07～0.64である、パラミロン誘導体を用いた請求項1に記載の水和ゲルの製造方法。

【請求項3】

以下の式(I)で表されるパラミロン誘導体からなるナノファイバー。

【化2】



(式中、nは60～3000の整数を表し、R₁はカチオン性官能基、または水素原子を表す。ただし、カチオン性官能基は、1つ以上含まれる。)

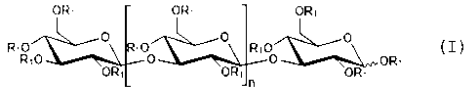
【請求項4】

カチオン性官能基による置換度が、グルコースユニット一つに対し、0.07～0.64である、パラミロン誘導体を用いた請求項3に記載のナノファイバーの製造方法。

【請求項5】

以下の式(I)で表されるパラミロン誘導体を含む透明フィルム。

【化 3】



(式中、 n は60～3000の整数を表し、 R_1 はカチオン性官能基、または水素原子を表す。ただし、カチオン性官能基は、1つ以上含まれる。)

【請求項 6】

カチオン性官能基による置換度が、グルコースユニット一つに対し、0.07～0.64である、パラミロン誘導体を用いた請求項5に記載の透明フィルムの製造方法。